

創立45周年記念講演会

「有効な炎症指標を使い確実な自己管理を」
— 標準治療・呼気NOの普及に向けて —

2014年11月16日(日)

時間: 12:30~16:00(開場12:00) 入場無料

場所: フォーラムミカサ エコ 7階

JR線・地下鉄銀座線神田駅西口下車徒歩5分

裏面地図参照

主催 認定NPO法人日本アレルギー友の会

後援 東京都

一般社団法人 日本アレルギー学会

公益財団法人 日本アレルギー協会

独立行政法人 環境再生保全機構

<創立45周年記念式典> 12:15~12:30

○来賓挨拶 公益財団法人 日本アレルギー協会 理事長 宮本 昭正 先生

○顕彰者表彰

第一部 講演



1. アトピー性皮膚炎

今考え直す、ステロイドの塗り方

自治医科大学 医学部 皮膚科学講座 教授

大槻 マミ太郎 先生

2. 喘息

喘息をわかりやすくする —呼気NO検査の可能性—

国立病院機構相模原病院 アレルギー科 医長

粒来 崇博 先生



3. 薬剤師の立場より

アトピー性皮膚炎 東京通信病院 薬剤部

副薬剤部長 大谷 道輝 先生

喘息 帝京大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師

呼吸器・総合内科病棟担当 前田 光平 先生



講師紹介 Q&A司会

アトピー性皮膚炎 東京通信病院 院長補佐兼皮膚科部長 江藤 隆史 先生

喘息 関東中央病院 呼吸器内科 部長 坂本 芳雄 先生

第二部 講師を囲んでQ&A

アトピー性皮膚炎・ぜんそく、それぞれのグループ
に分かれて、講師を囲んでQ&Aを行います。

45th
ANNIVERSARY

来場者の方に治療情報冊子、敏感肌用スキンケア用品のサンプルを差し上げます！

講師略歴 講演内容

－アトピー性皮膚炎－

今考え直す、ステロイドの塗り方

自治医科大学 医学部

皮膚科学講座 教授 大槻 マミ太郎 先生

ステロイド外用薬は、その社会的バッシングが席卷した1990年代と比べると混乱はなくなったが、実臨床ではなお、患者の根強いステロイド忌避から外用量不足と対峙しなければならない場面も少なくない。

効果的な塗り方の指導とは何なのか。講演では、これまでのエビデンスをもとに最近自身で実践している外用指導を紹介するとともに、血清TARC値を炎症指標として用いることによるメリット、とくにセルフコントロールのモチベーションアップについても示したい。

昭和61年 東京大学医学部卒業
東京大学医学部附属病院皮膚科

昭和62年 関東中央病院皮膚科

平成元年 東京大学医学部皮膚科助手

平成2年 ニューヨーク大学医療センター分子生物学部門に留学

平成6年 東京大学医学部皮膚科講師

平成10年 自治医科大学皮膚科助教授

平成16年 自治医科大学皮膚科教授

－喘息－

喘息をわかりやすくする －呼気NO検査の可能性－

国立病院機構相模原病院

アレルギー科 医長 粒来 崇博 先生

気管支喘息の治療は発作が起きた場合の症状改善治療と、発作予防のための慢性治療で成り立っています。今までの診察法は発作が起きているかどうかを評価するものであるため、発作予防がどのくらいうまくできているかは推測するしかありませんでした。最近保険適応となり、発作予防の確認法として注目されているのが呼気NO濃度測定です。この検査法がどのように活用できるかを概説します。

平成10年3月 横浜市立大学医学部卒業

平成10年4月 横浜市立大学医学部附属病院臨床研修医

平成11年4月 横浜市立大学大学院医学博士課程

：呼吸器内科学の研究臨床に携わり、鈴木基好講師に師事。

平成14年12月 横浜市立大学医学部附属病院特別職常勤医（第一内科）

平成15年4月 国立相模原病院（現独立行政法人国立病院機構相模原病院）

アレルギー科医師 兼 臨床研究センター喘息研究室員

平成24年4月～ 同アレルギー科医長

平成25年4月～ 同臨床研究センター 気管支喘息研究室長

－アトピー性皮膚炎－

「ステロイド外用剤を正しく使うには」

東京通信病院 薬剤部

副薬剤部長 大谷 道輝 先生

アトピー性皮膚炎の治療ではステロイド外用剤による外用療法が中心となりますが、いまだに使用に抵抗があるケースが多く見られます。

一方、抵抗なく使用されている場合でも、正しく使われていない場合が少なくありません。

今回はステロイド外用剤を中心として保湿剤など外用剤の正しい使い方を紹介します。

昭和57年 城西大学薬学部薬学科卒業 東京大学医学部附属病院薬剤部

平成8年 東京通信病院薬剤部

平成9年 薬学博士（東京大学薬学部）取得

平成11年 日本医療薬学会認定薬剤師、同指導薬剤師

平成12年 東京通信病院薬剤部 副薬剤部長

－喘息－

「多様化する吸入薬の適正な使用方法」

帝京大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師

呼吸器・総合内科病棟担当 前田 光平 先生

吸入療法は喘息治療の中心的役割を担っています。近年、吸入ステロイドを中心とした薬物治療の進歩によって、喘息の症状はコントロールされやすくなってきました。

しかし、吸入療法が効果を発揮するには、吸入薬に対する患者さん自身の理解、処方された吸入器を使いこなすテクニックが必要になります。私は薬剤師の立場から、吸入療法の考え方、特に吸入器の上手な使い方についてお話しさせていただきたいと思います。

平成20年3月 帝京大学 薬学部 生物薬学科 卒業

平成22年3月 帝京大学大学院 薬学研究科修士課程修了

平成22年4月 帝京大学医学部附属病院 入職

講演会会場 フォーラムミカサ エコ（地図参照）

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-18-2 内神田東誠ビル 7F

電話 03-3291-1395

<参加申込・お問合せ先>

認定NPO法人 日本アレルギー友の会

TEL 03-3634-0865

FAX 03-3634-0850

<http://www.allergy.gr.jp/>

E-mail j-allergy@nifty.com

毎週火曜日・土曜日 11:00～16:00

*11月10日から11月15日は毎日受付

